令和８年３月３１日

軽井沢町議会
議長 川島 さゆり 様

視察報告書

軽井沢町議会議員　小山　裕嗣

① EDIX 東京 2025 視察
日程：
令和 7 年 4 月 24 日（木）
場所：東京ビッグサイト
内容：
① 生成 AI の教育活用と個別最適な学び
文部科学省のガイドラインに準拠した、安全な「教育用生成 AI」の展示が多数見られた。
AI アシスタント： 児童生徒の学力に合わせた個別ドリルや、文章の推敲を支援するツール。
校務効率化： 先生の指導案作成や通知表の素案作成を支援し、授業準備の時間を短縮するソリューション。

② GIGA スクール第 2 期への対応（ハード・ソフトの両面）
端末の更新時期（プレセカンド・ギガ）を見据えた展示が強化
定期テストや小テストのデジタル化、採点自動化システムによる採点業務の負担軽減。

③ 不登校支援と多様な学びの場の提供
メタバース・VR 活用： 不登校傾向にある児童生徒が、自宅からアバターで参加できる仮想教室や交流空間の構築。
STEAM 教育： 3D プリンタやドローン、マインクラフト等のゲームを活用した実践的な探究学習プログラム。

考察：
視察を通じて、教育現場の DX は「単なるデジタル化」から「AI を活用した個別最適化と教員の負担軽減」へとフェーズが移行していることを強く実感した。特に、デジタル採点システムや生成 AI による校務支援は、教員の長時間労働是正に直結する。

また、GIGA 第 2 期に向けた端末更新においては、単に安価な機器を選ぶのではなく、CBT や探究学習に耐えうるスペックの確保と、通信環境の整備が急務であると感じた。当町にお

いても、これらの最新技術を段階的に導入し、誰一人取り残さない教育の実現の検討を進めるべきではないかと考える。とにかく生成 AI の出展が多かったことが一番印象に残った。

②中野区立中野中学校 特別支援級小集団活動 ドラマ教育視察
日程：
令和 7 年 10 月 29 日（水）
場所：中野区立中野中学校

内容：
中野区立中野中学校 特別支援級の小集団活動の模様を視察。対応いただいたのは、中野区教育委員会 花井統括指導主事、山本指導主事。当日は、小集団活動ドラマ教育の授業を視察。授業は、特別支援級担当、小林教諭。

45 分間のドラマ教育の模様を視察。小林教諭他、全 4 名の教員がグループの中に入って、一緒に取り組む。様々な感情アイテムツールなど、言語化が難しい生徒に対応するため、有効なツールを活用。

授業終了後は、別室にて、振り返りと東京学芸大学のアドバイザーよりフィードバック。

特徴と指導内容
少人数指導: 上限 8 人、平均 3 人程度の少人数編成で、きめ細かな対応を行う。
自立活動の強化: コミュニケーションスキル、感情コントロール、生活スキルなどを集団の中で学ぶ。
個別計画の策定: 一人ひとりの課題に応じた「個別の指導計画」に基づき、指導・支援を行う。
関連する支援体制
特別支援教室（通級）: 通常学級に在籍しながら、週に 1 回程度、巡回指導教員から小集団で指導を受ける。

考察：
中野区の特別支援級の担当教員、巡回制度等、手厚さに感銘を受けた。中野区の中学校特別支援学級（固定級）では、自閉症・情緒障害、知的障害などに対応し、少人数で一人ひとりの特性に応じた自立活動や教科指導を行っている。小集団活動（グループ活動）では、対人関係能力、コミュニケーション能力、気持ちの切り替えなどを育て、成功体験を通じて自信を育む指導が行われている。中野区は「子どもの権利」を機軸とした教育を掲げており、特別支援学級における小集団活動は、単なるスキル習得の場ではなく、生徒が「自分らしくいられる居場所」としての機能も果たしていた。大いに参考にすべき事例であった。

③中野区教育センター 教育支援室　フリーステップルーム
令和 8 年 2 月 19 日（木）
場所：中野区教育センター3F

内容：
学校に通えず、他の学習の場を探している区内在住及び区立学校在学の小中学生のための居場所で、教科の学習やグループでの活動、行事や相談等を通して、学校への復帰や社会的に自立するための支援センター。昨秋に続き、中野区教育委員会 山本指導主事に対応いただいた。

運営は、令和 7 年 4 月より民間委託という形態をとっている。民間事業者の経験とノウハウを活用し、これまでの支援内容は継続しながら、体験型学習を充実させ、これまで以上に「楽しい」と思える、安心できる居場所作りをますます充実させている。

(1) 体験的な学習の拡充
　ものづくり、理科実験、音楽、イラスト、調理、ダンスなど子どもたちの興味・関心に合わせて自由に選べる体験的な学習を充実。また、宿泊等の行事も計画している（自由参加）。
(2) 一人ひとりに合わせた学び方の充実
・通室（対面）での学び
・自宅（WEB）での学び
・対面と WEB の併用
・在籍校や分室との併用
など、子どもの状況と段階に合わせた学び方を選択できるようになる。また、これまで同様、VLP（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）も活用可能。
(3) 相談・連携体制の充実
常駐の心理士を配置し、定期的に相談や面談を行いながら、支援を行っている。また、これまで同様、在籍校や各関係機関との連携も密に図っている。

（対象）
・中野区在住の小学 1 年生～中学 3 年生が対象
・区立学校のみならず、国公立、私立の学校に在籍している児童生徒も対象。

考察：
今回視察したのは、特別活動で、一般社団法人プレイキッズシアターが行っていた「じぶんプレイス」という取り組み。多様な表現手法を活用した内容で、2 時間近い時間で、異年齢の児童生徒が混ざって共に過ごしていた。山本指導主事によると、最初は遊んでいる場所で

ないか、と誤解されるところもあるが、子どもたちは自分で時間をマネージメントし、自分たちで考えて行動する習慣が定着してきているとのことだった。実際にこの授業の間も異年齢の子どもが、入れ替わり立ち出入りも自由で、思い思いの時間を過ごしていたし、民間委託することで、行政だけの枠組みにとらわれない柔軟な運営が可能になっていると感じた。行政の直接運営だけではない官民一体の取り組みは、今後当町においても、その可能性について大いに検討すべき課題ではないかと考える。